

## 施策横断的な課題に取り組むための調査研究（平成 29・30 年度） 研究代表者 大阪大学大学院人間科学研究科 野坂祐子

### 1. H29 年度調査研究の結果

- 性的被害を受けた多く児童を受け入れていると想定される児童自立支援施設を対象にヒアリングを実施。
- 児童の個人的なトラウマとその影響に対する対応は、現場の取組状況は一律でなく、以下のように幅があることがわかった。
  - i 児童自身や集団の混乱を生じさせないように「慎重に避ける」施設
  - ii 児童自身や職員がトラウマを理解した上での積極的対処（トラウマインフォームド・ケア。以下「TIC」という。）を講じる施設
- そのため、将来、全国的な実態把握を行うことを見据え、ヒアリングやアンケートによる実態把握を更に進めることとした
- また、施設の積極的な取組を促すには、「TIC」の効果のエビデンスを示す必要。「TIC」に基づく研修に用いる児童向けの心理教育用教材を開発。次年度以降の実践研究と効果評価につなげる。
- そうしたことを通じて、児童自立支援施設を切り口に、広く児童福祉行政サービス領域において、被害の安全な把握方法と効果的な支援・介入のための方策の検討とガイドライン策定を目指すこととする。

### 2. H30 年度調査研究の結果

- 昨年度に引き続き、児童自立支援施設のヒアリング調査、教材の改訂・開発を実施。
  - 調査の結果では、TICによる取組に着手している施設では、TICが一定の有用性をもつこと等が認識されていた。
- 「TIC研修」を試行的に実施（児童自立支援施設及び児童相談所等の職員を対象）
  - 参加者は、研修後、TICの理解と有効性などについて、肯定的な評価をした。
- 児童相談所における、性的被害を受けた児童に対する専門面接の実施状況について予備的調査。
  - 研修参加者に専門面接の実施状況を調査したところ、専門面接の実施状況、特に施設入所中に発覚した事案への対応の差があることも伺えた。

## 施策横断的な課題に取り組むための調査研究（令和元年度計画）

研究代表者 大阪大学大学院人間科学研究科 野坂祐子

### 【昨年度までの調査研究から】

#### ●児童自立支援施設

- ・性的被害体験がある、もしくは潜在的リスクを有する児童が多数入所
- ・施設の対応は一律ではない〔慎重に避ける⇔TICの導入〕

#### ●児童相談所

- ・司法面接（被害確認面接）に関する技術研修
- ・司法面接の実施状況に関する予備備調査〔ケースバイケース〕

- ・職員へのTIC研修による有用性と課題の把握〔具体的な聞き取り・対応のトレーニング、事例に基づく具体的な検討〕
- ・国内外の研究のレビューによるTICの児童福祉領域への適用と有用性の確認

### 【今年度調査の目的】

#### ●児童自立支援施設

##### ①入所児童に対する組織対応の現状把握

- ・性被害問題をかかえる児童への聴取
- ・児童のトラウマ反応の理解と対応
- ・トラウマや性に関する心理教育の実施

##### ②職員向けTIC研修の試行によるプログラム評価・検討

- ・児童の発達とトラウマを考慮したプログラムの開発

#### ●児童相談所

##### ③司法面接の実施状況の把握

- ・性被害事案に対する聞き取りに関する組織的対応
- ・社会資源の活用や連携等

##### ④職員向け司法面接の技術研修と評価

- ・3日間の専門トレーニングの実施

### 【調査内容】

##### ①全国児童自立支援施設への質問紙調査

- ・58機関対象、郵送法、代表者が記入
- ・対応の状況について全体の傾向を把握
- ・現場の課題（ニーズ）の抽出を行う

##### ②職員向けTIC研修の試行

- ・3-4機関対象（女兒への対応経験の多い施設等）
- ・質問紙及びヒアリング調査

##### ③全国児童相談所への質問紙調査

- ・約220機関対象、郵送法
- ・現場の課題（ニーズ）抽出

##### ④職員向け司法面接の技術研修の実施

- ・1機関対象
- ・質問紙及びヒアリング

### 【成果（見込み）】

1. 今後、児童福祉領域における性的虐待及び性的搾取等の性被害事案に対する支援方策と体制を検討する資料が得られる。
2. 性的トラウマへのケアとして有用とされるトラウマインフォームドケア（TIC）の導入、及び司法面接システムの確立に向けて、現場の準備性（レディネス）とニーズを把握することができる。
  - ➡児童の利益と職員の安全が考慮された、実態に合わせた支援方策（ガイドライン）の提案につなげることができる。